

## 第2回 四日市市子ども・子育て会議 議事概要

日時：平成25年10月30日(水) 午後3時～午後5時

場所：四日市市総合会館 7階 第3研修室

### (1) ニーズ調査について

[調査概要について]

○事務局から資料「子ども・子育てに関するニーズ調査について」に基づき説明。

《質疑》

会 長 事務局から調査の位置づけや概要について説明があったが、概要のところでは何か質問があればどうぞ。

委 員 就学前児童の対象者が3,000人であるのに対して、小学校児童の対象者が1,300人だけなのはなぜか。小学生の対象者数が少なく感じる。

事務局 アンケートの対象は、就学前児童では0歳から5歳となっている。小学校児童については、児童福祉法の改正で学童保育所の対象が小学6年生までとなったこともあり、現在学童保育所を利用している1年生から3年生の児童が高学年になった場合、どのような利用希望があるかを把握することが、今回の小学生に対するアンケート調査の主たる目的であるため、低学年と高学年という大きなくりでどれだけ調査が必要かを考え、1,300人と設定した。

委 員 現在の利用児童数がそれくらいということか。

事務局 小学生は、25年4月現在、市全体で17,810人ほどいる。推計するためにどれだけの人数が要かということを経験的な感覚で算出すると、1,300人程度となる。

委 員 実施スケジュールでは今年中に配布することとなっているが、それまでにこの調査票を作るということか。

事務局 そのとおり。

委 員 現在の利用状況と今後の利用希望を把握した上で、次の具体的な施策に転じていくためのアンケートであるということが大前提だと思う。本来は全員に調査をしないと量はつかめないが、経費の関係もあってそれが難しいことは理解できる。ただ、このような抽出調査で、どれだけの子供がいるのか、30人なのか40人なのか50人なのかといったところまで把握することは困難だろう。また、量の見込みとして、どこまで詳しい数字を出すのか。3,000人を抽出するとして、単純に各年齢当たり500人とした場合、小学校区に分けると、各年齢、各地区が十数人となる。そこから分析して、どの程度のニーズが把握できるのかという心配はある。地域的な偏りがある中で、後々の統廃合

などの際にそれぞれの地域のニーズがどうなっているのかが分かるような、活用できる資料になっていくのかどうか、そのあたりの見通しをお話いただけるとありがたい。

事務局

おっしゃるとおり、各年齢について<sup>しっかい</sup>悉皆調査を行うのが一番よいが、毎年2,700人ほどの出生があることを考えると、それは難しい。就学前児童の対象者数3,000人を年齢ごとに均等に分けると500人ずつであり、出生数2,700人のうちの500人ということなので、全数の五分の一から六分の一になってしまう。地区や年齢について極端な偏りがある場合は調整することを考えている。

委員

どのように配布や集約を行うかを慎重に検討しなければ、有効なデータを取ることができない地域や年齢が出てくる可能性があるので、配慮願いたい。

会長

先ほど説明いただいた資料の「3. 四日市市におけるニーズ調査について」に「全体的な年齢や地域のバランスを考慮する」と記載があるので、おそらくそのような調整があると思う。アンケート調査というものは、全体的な傾向はみられるが、細かいデータの把握となるとどうしても無理が出てくる。全体的な傾向をとらえて、見込み量の把握にもっていくかたちになると思うが、調整はある程度必要かもしれない。

委員

声なき声があることを考慮してもらえればと思う。アンケートは、100%の提出というのが一番望ましいことではあるが、それを提出できない人の中に深刻な課題があることが多い。そこに出てこない声についても何かの形で配慮してもらえるよう、願いたい。

会長

「その他」という選択肢の中に難しい問題が出されることがある。それも、集計において落とさないようにしてもらいたい。

委員

第1回四日市市子ども・子育て会議の資料2に平成25年度の四日市市における幼稚園・保育園の入園数等が記載されていた。それを見ると、私立保育所は定員以上を受け入れているが、公立の保育所も含めて考えると、全体では定員枠より子どもの数の方が少ない。他の市町では子どもの数が定員を超えて待機児童となる問題があるが、四日市は定員の数からすると、余裕があるように思える。例えば40～50人の待機児童がいるとしても、まだ70人程度は定員に余裕がある。もちろん、地域によっては定員を超えているところもあるが、受け皿だけを考えると、待機児童の問題は発生しないとも考えられるが、どうか。

事務局

実際に子供の数自体は減ってきている。4歳児・5歳児は、1クラス30人まで受けることができるが、その年齢の人数がかなり減ってきている。逆に2歳未満の人数は増えているが、年齢ごとの部屋数自体は変わらないため、受け入れられない状況である。50人の待機児童の大半は0歳児・1歳児であり、保育室の広さの都合で、入れないというケースが多い。

委員

よくわかった。

[調査票について]

○事務局から資料「アンケート調査(案)設問項目一覧」「四日市市子ども子育てに関するアンケート調査(案)【就学前児童】」「四日市市子ども子育てに関するアンケート調査(案)【小学校児童】」「四日市市における教育・保育や子育て支援の「事業一覧」(案)」に基づき説明。

《質疑(アンケート調査(案)【就学前児童】)》

会 長 「アンケート調査(案)設問項目一覧」に記載された番号の順でアンケートの設問について議論を進めていきたい。ご意見をいただき、それを事務局が再検討していただければと思う。

まず資料「四日市市子ども子育てに関するアンケート調査(案)【就学前児童】」を見ていただき、表紙と1ページのところまでについて意見をいただきたい。

委 員 振り仮名は振らないのか。

事務局 今のところは予定していない。

委 員 外国から来た人は、ひらがなしか読めない人もいると思う。特に四日市は外国から来た人が多く、また、日本の国籍を持っていても外国生まれの人もいると思うので、全部振り仮名を振ったほうが理解はしてもらえと思う。

事務局 振り仮名をつけることでボリューム感につながってしまって、回答率が上がらないということになっていけないし、かといって判読されないケースがあるということもどうかと思うので、一度検討させていただきたい。

会 長 調査ご協力のお願いと1ページについて、何かあればどうぞ。

委 員 国から必ず入れるように指示があった設問は一字一句、国が示した表現のままでないといけないのか。

事務局 必須とされている部分についても、国のひな形の表現がわかりにくいところは、言葉を変えたところがある。保育所や幼稚園の利用状況や利用希望について、量の見込みを立てるために必要となる設問については、大きく内容を変えてしまうことはできないが、いただいたご意見を基にわかりやすい表現に変えることは、検討していきたいと考えている。

委 員 (就学前：P1：問4について)

問4の「アンケートにご回答いただいている方は、あて名のお子さんからみて、どなたですか」という表現がわかりづらい。もっとわかりやすい表現はないか。

事務局 基本的に必須の設問は、その主旨から逸脱しない範囲で、より伝わりやすい表現があれば直していきたいと思っている。「どなたですか」というのは、下に「母親」、「父親」、「その他」とあるので、イメージとしてはわかっていると思う。ただ、表現がしっくりいかないところも確かにあるので、そのあたりもご意見をいただきたい。

会 長 先ほどの意見は、回答する側として見ていただけるとわかりやすくなるのではないかというものだったと思う。また、自分からの提案となるが、最初の「調査ご協力のお願ひ」の文章の中に、ホームページや広報で結果を報告する旨を記載してはどうか。最近、協力していただいた人に結果を報告するのがルー



中で、先ほどの「制限がなければ働けたかもしれない」という人の声をどう吸い上げるかというところが焦点だと思う。

委員 例えば、保護者が「子育て支援が十分でない」と感じるような園にとっては、もう少し子育て支援を充実すれば、保育を希望する人が入れるのか、あるいはそうではないのか、そのあたりを考えるデータとして使えばありがたいと思う。保育サービスが利用できないからという結果が出たら、保育所を増やすという施策になってくると思う。ニーズを次にどう活かすか、それが活きるような尋ね方をしなければいけない。幼稚園側としては、「預かり保育の時間を延長してほしい」といったような声も聞きたいと思っている。5時まで、5時半まで、6時までというのが四日市の私立幼稚園の預かり保育の時間である。保護者のニーズによっては、もう少しそのあたりを考えなければいけないと思う。また、朝も7時からの園、7時半からの園、8時からの園、8時半からの園がある。早朝保育のニーズについても聞いていきたい。

委員 学童保育でも、似たような話を聞く。愛知県まで仕事に行こうと思うと、保育園で朝の保育をやっているかどうかで、勤め方が変わる。辞めざるを得ないこともある。そういった話をよく聞くので、「現在利用している施設の子育て支援に制限があるので働いていない」という選択肢を入れていただくと非常にわかりやすい。

事務局 (就学前：P8：問17、問17-①について／就学前：P4：問11-①について)

利用を希望する時間に関しては、8ページの問17に、幼稚園の預かり保育も含めた平日の教育・保育の事業について、「現在、利用していないに関わらず、どの事業を利用したいか」という意向と、その利用時間の希望を尋ねる欄がある。ただ、前から順番にアンケートを進めていった場合、後ろにこういった設問があったとしても、4ページの問いのような、自分の回答したい選択肢がないという設問が続いていくと、ストレスがたまり、そこで回答をやめてしまうということも考えられるので、いかにストレスなく回答していただけるかといった工夫は必要である。

委員 例えば、8ページの利用時間の希望を回答する設問では、費用に関係なく希望を聞いているだけなので、多めのニーズ量が出てくる。では、実際にお金を出してその時間まで預けるのかというと、「そんなにお金を出すのなら家で見る」ということになる。自分の園でも調査したことがあるが、「調査ではこれだけの数字が出てきたのに、実際にやったらこれだけの希望しかない。一体どうしたことだろう」となったことがある。その原因は、利用するのに費用がかかることである。

4ページにある、現在働いていない理由を問う設問は、就労したいと思っている人にとって何がネックになっているのかを読み取るものになっている。ここでは雇用関係にその要因を求めるかたちとなっており、幼稚園や保育所はどういう受け皿の対応をしていったらいいのか、その方向性を検討できる選択肢に

はなっていない。今回大事なのは0から5歳をどう受け止めるかということなのに、この選択肢では「1. 保育サービスが利用できないから」しかそれに該当するものがない。あとは、どちらかという与企业側に対してこういう働き方を考えてほしいという方向につながるものである。これでは調査の項目としては不十分であるため、幼稚園・保育園側に要因を求める選択肢も付け加えてほしい。

事務局 先ほど委員がおっしゃったサービス提供の部分については、確かに「1. 保育サービスが利用できないから」しか選択肢がない。次世代育成支援計画のときは、福祉部が担当していたので、学校教育に当たる幼稚園や学童保育の視点は入っていなかったという感がある。経年変化を見てはいくものの、例えば保育サービスが利用できない、あるいは不十分というような、預かり保育も含めた保育に関しても、もう少しカバーできる回答欄にできないか検討したい。

委員 子育て支援という書き方をすれば回答しやすいのではないかと思う。

事務局 サービスが不十分かどうかということについては、「1. 保育サービスが利用できないから」を受け皿になるような言い回しに変えれば、それでわかると思われる。経年変化に関してもそれで追える。

会長 次世代育成支援計画に関する調査と比較することも目的の一つである。例えば、今の選択肢を変えないとすると、「7. その他」のところでもそういった希望があるということが現れてくるかもしれない。確かに経年的なところも見たいと思うが、今言われたように設問の内容が少し偏っているのではないかというご指摘ももっともだと思う。その他の回答も拾っていく必要がある。そのあたりも大事にしないではいけなだろう。

事務局 内部で検討させていただきたい。

会長 では、6～9ページの保育事業に対する利用状況についてはいかがか。

委員 (就学前：P7：問16-④について)

7ページの問16-④の選択肢4番で、「利用したい事業が地域にない／空きがない」と並列になっているが、利用したい事業が地域にないということと、地域にはあるものの空きがないということでは、意味が違ってくる。例えば、利用したい事業が地域にあるが空きがないということであれば、その地域の事業の定員枠を増やすという施策になってくるが、利用したい地域に事業がないということであれば、その地域に事業を作る施策ということになる。それぞれで展開すべき施策が違ふと思われる。

会長 確かにその通りである。

事務局 この選択肢については、サービスの量として足りているか足りていないかを焦点としている。それが地域にないからなのか、あるけれど空きがないからなのかについては、実際にその地域に事業があるかどうかで判断できる。そういった意味合いでの並列となっているが、今後、分析していくうえで、分ける必要があるか検討したい。

委員 公立の幼稚園・保育園のことを考えたときに、自分の地域にあるかないかとい

う不満の声のほうが大きい。地域にはあるが入れないということとはニュアンスが違う。

事務局 おっしゃるように、空きがない、利用できないということは施設数がゼロということとは違う。

委員 後々のことを考えると、対策を立てるには分けたほうが考えやすい。

事務局 検討させていただく。

委員 (就学前：P 8：問 17について)

事務局 8 ページの問 17 で、選択肢に認定こども園が含まれているが、四日市に施設がないのに入れておいてよいのか。

事務局 8 ページは、今後どのような事業を利用したいのかという利用希望を確認しており、今は四日市市にない施設について今後、利用を希望するという利用希望も含めてお聞きする設問であるため、認定こども園も選択肢に入れさせていただいた。

会長 10 ページの「休日あるいは長期休暇中の定期的な利用の希望」、11 ページの「病気の際の対応」についてはいかがか。

委員 特にないようなので、12～13 ページについてはどうか。

委員 (就学前：P 12：問 22、問 23について)

事務局 問 22 で不定期に利用している事業があると回答した人は、その後の問 23 の事業を利用する必要があるかという問いに対しては、「利用したい」に○が付くと思う。必要があると思って利用しているのだから、なぜこんなことを聞く必要があるのか。

事務局 問 22 は利用実態、問 23 以降は利用希望を聞いている。潜在的な利用希望として、現在利用していなくても利用したいという場合はここで反映することになる。

会長 ここまではよいか。次の 14 ページ、地域の子育て支援事業の利用状況についてはどうか。

委員 (就学前：P 14：問 26-①について)

事務局 14 ページ中段の問 26-①に、選択肢を追加することは可能か。

委員 「情報が無い」という選択肢を入れてほしい。利用方法がわからないからという回答に近いとは思いますが、情報がなくて子育て支援センターを利用しないという母親は多いと思うので、ご検討願いたい。

事務局 選択肢として入れるようにしたい。

会長 他はよいか。次は 15～17 ページであるがいかがか。

会長 (就学前：P 15：問 28について)

事務局 「1. 働いていなかった」、「2. 取得した」、「3. 取得していない」とある。「2. 働いていなかった」は、ずっと働いていなかったということか。働いていたけれど、今は休職中等の意味合いなのか。

事務局 子どもが生まれたときに働いていなかったかということである。結果として長

期間働いていなかった場合もあるかもしれないし、たまたまそのときに、何らかの都合で働いていなかった場合もある。あくまでもお子さんが生まれた時点でのことである。

- 委員 (就学前：P16～17：問29、問29-④について)  
問29からつながる、17ページの間29-④で「1歳になったときに必ず利用できる事業があれば」とあるが、利用できる事業はどのようなものなのかイメージがしにくい。これはどのようなイメージしているのか。
- 事務局 確かに今のままでは表現的にはわかりづらいかもしれない。「四日市市における教育・保育や子育て支援の「事業一覧」(案)」にあるような、子どもを預けられる施設、サービスを示している。
- 会長 どこかに、例えばこういうものであるという記述はできないか。
- 事務局 わかりやすい表現となるように検討する。
- 委員 制度と誤解するおそれがある。示してもらおうとわかりやすい。
- 会長 次は18ページ、子育て全般についての設問である。
- 委員 これも次世代からの流れがあり、選択肢も踏襲したいところだと思う。
- 委員 (就学前：P18：問30について)  
例えば、18ページに「父親の子育て参加の促進」と書いてある部分がある。そういう需要もあると書いていただくと、参加してみようと思える人がいるかもしれない。現状では、「情報が流れてこない」、「やりたいがどこへ聞いたらいいかわからない」という話もある。行政側のPRとしても、どこかに入れてもらおうとよいと思う。例えば、「こども未来部にお電話ください。詳しいことはお答えさせていただきます」というようなことが書いてあれば、父親にとっては非常にありがたいと思う。子育てマイスターもごく一部の人なので、そのあたりの情報も入れていただきたい。
- 情報をどこで手に入れるのかを考えたとき、ほとんどの父親は広報を読まない。口コミやネットで情報を手に入れることが圧倒的に多い。新聞や広報で大きく取り扱ってもらっても、やはり一番情報が集まってくるのは口コミや手配りのピラである。少し関心のある父親であれば「父親の子育て参加の促進」に○を付けると思う。アンケートと一緒に、子育ての情報が記載されたものを1枚でも入れておけば、更に関心が高まると思うので、ぜひ入れていただきたい。
- 委員 地区市民センターにはいろいろな情報誌が置いてあるが、どうしても追加して入れていくというのは少ない。入れたら入れっぱなしで、期間が過ぎればまた新しいものになってしまう。「センターの窓口にこういうものがあればいい」と思うような、例えば情報誌のような選択肢があってもいいのではないかと。
- 事務局 確かに四日市のPRにもなると思うが、一部の項目についてだけ説明が入ると、説明の入ったものだけに偏ってアンケート結果に影響が出る可能性があるため、一度考えさせてもらいたい。少なくとも四日市市のPRはしていきたいと考えている。
- 会長 問31の、認知度・利用度、利用意向をそれぞれ○で囲むところについて、こ

これは問題ないか。

委 員 (就学前：P 1 8：問3 1について)

例えば、「発達総合支援室」、「家庭児童相談室」「ショートステイ」は大事な役割を果たしていただいていると思うのだが、(2)の「利用意向」で、「今後利用してみたい」「利用するつもりはない」「利用する必要がない」という選択肢からどれを選べばいいのか、私が回答者であればすごく悩むと思う。今、そういった事業の利用が必要な状況に直面している人は書けるかもしれないが、そうでなければ答えようがないのではないか。

委 員 何もない状況で「発達総合支援室を利用してみたい」とは、普通は書かないと思う。

委 員 大事な役割を持つものなので、ここに載せて認知していただくのはいいことだとは思うが、アンケートの選択肢としてはどうか。

委 員 ⑤の「カンガルーム」や⑨の「エスペランス四日市」など、一事業所名が出てきているが、それはよいのか。

事務局 事業の性格がわかる程度の表現にとどめるべきであって、固有名詞は避けるべきということか。

委 員 そういう考え方もできる。問い合わせの電話があれば、実はこういう施設がありますと紹介するのはよいと思う。

事務局 表現を検討したい。

会 長 先ほども意見が出た(2)の利用意向についてはどうか。

委 員 選択肢の①から⑨までを全部並べたときに、同じ聞き方をすることはできないだろう。

委 員 遊ぼう会を利用してみたいというのはわかるが、ショートステイを利用してみたいというのはどうか。

会 長 例えば、「利用してみたいと思われる方は、どういう施設を利用してみたいとお考えですか」というようにしてはどうか。そうすれば意向がはっきりすると思う。

委 員 ショートステイは本当に育児に疲れて行き詰った時、もう虐待するかもしれないという時に利用する事業であるということが回答者にわかっているかどうか。

事務局 コンパクトにしたいあまり、かなり設問に無理が生じていると思う。ご指摘の通りだと思うので、検討させていただきたい。

会 長 的確な情報が必要なところに伝わりづらくなっている。本当に必要な情報の中から選択していくならよいが、偏った情報だけでその中から選択していくのは、やはり難しい。こんなに情報があふれているのに、自分の求めている情報になかなかたどり着かないと感じる。子育てしている人や仕事をしている人は、特にその傾向が強いように思う。今は、インターネットを使うと、情報が簡単に出てくるが、それがすべて正しいとは言えない。では、どうしたら自分の地域の、あるいは一番必要な情報が手元に届くのか、それを行政がどのように支援していくかが見えてくればよいと思う。あとは、先ほども言ったように、「利用

してみたいと思われる施設はどれですか」というようにすると、利用意向が施設ごとに見えてくるのではないか。

委員 ①から④の項目と、⑤から⑨の項目は施設の性質が違うので、分ける必要があると思う。行きたいとか行きたくないではなく、行かざるを得ない状況もある。検討していただきたい。

事務局 これについては内部で適正な表現を選択できるように検討する。

会長 (就学前：P19：問32について)

ぜひそうしていただきたい。19ページの「子育てに関する情報をどのように入手していますか」について、これも非常に聞きたいところである。インターネットを使いこなせればもちろん結構だが、すべての人がそうであるわけではないので、このあたりでどのような結果が出てくるかが気になる。

委員 削除されている「お住まいの地域における子育ての環境や支援への満足度について当てはまる番号に1つに○をつけてください。」という設問は消さなくてもよいと思う。一番簡単に評価を出せるところである。難しいことを考えなくても○を付けられる。

事務局 スペース的に大した面積を割くわけでもないが、抽象的なデータしかとれないということで削除させていただいた。満足度が低いと出たときに、どの部分が低かったのかということにつながりにくい。

委員 消すか残すかは難しいが、これは一番簡単に評価が出てくると思う。

事務局 (就学前：P1：問1について／就学前：P19：問32について)

最初の問1で、校区を確認しているので、地域性は出てくる。市内の各小学校区別で、ここは比較的満足度が高い、この小学校区は満足度が低いというデータの取り方もできる。

委員 今はネット社会なので、ネットでイベントの情報を仕入れ、車で飛び回ったりする。四日市は、どちらかというところ車文化に近いので、その地域だけではなく、全体的な評価として出てくるのではないか。

委員 (就学前：P19：問33について)

子育ては、「これがいいから」「あれがいいから」といった具体的な評価ではなく、日常的に受けているイメージや感覚によって評価される部分が大きいと思う。四日市市は、子育てしやすいまちを目指しているのだから、施策への反映は別として、そういう意味では感覚的な評価を捉えておく必要がある。また、問33は子育てに強い思いのある人は書くだろうが、そのままでは大抵は面倒だから書かない。けれど、直前に満足度を聞く設問でワンクッションおくことで、問33を書く人が出て来ると思う。そういう意味で、私は満足度を聞く設問を入れるのは面白いと思った。

事務局 問33で自由に書いていただくための導入になるということか。

委員 そのとおり。

委員 こういったアンケートでは、最後の設問は「やっと終わった」という達成感で書く言葉が出てこず、回答されないことがよくある。そうならないために、先

ほどあった発言のとおり、満足度を問う設問は入れてよいのではないか。ひとりの人が1か所の施設等にだけ行っているということはまずない。市内全体で、いろいろなどころに行っている人も多いと思う。

事務局 最後まで回答していただくのが重要だと考えている。

《質疑（アンケート調査(案)【小学校児童】）》

会 長 続いて、「四日市市子ども子育てに関するアンケート調査(案)【小学校児童】」に移りたい。アンケートの設問としては就学前児童と比較して、幼稚園や保育園といった教育・保育に関する事業、あるいは育児休業がなくなり、代わりに放課後の過ごし方、生活習慣といった項目が加わっている。前半のところは先ほど議論したので、後半の新しく加わった部分だけ議論していただきたい。6～7ページあたりはどうか。

委 員 (小学校：P6：問17について)  
現在の学童保育の問題点や課題についてはどうなのか、という思いがある。ここでの学童保育を利用しない理由は、利用料がかかる、空きがないといった物理的な部分だけであるが、内容の面についてはどうなのか。

委 員 学童保育の運営に携わらなければならないので自分の子どもは入れられないという声は、全国のアンケートでも多かった。

委 員 そういった声は「7. その他」で引き出すことになるのだと思う。その他で、そのような意見が出てくればいいのだが。

委 員 指導員の質に不満がある人もいるかもしれない。

委 員 それもあると思う。学童保育を利用しない理由はいろいろあると思う。

委 員 学童の指導員を対象にした研修会があるようだが。

事務局 市で研修を年2、3回実施している。その他に、学童保育所として個別に実施しているところもある。

委 員 その研修は、指導員全員が受けているのか。

事務局 全員に案内はしているが、学童保育を運営しながらの研修会なので、必ずしも全員ではなく、順番に受けている学童保育所もある。

委 員 私は、学童保育の指導員はファミリーサポートの研修も受けたらよいと思うぐらい、研修が足りていないと感じている。学童保育所が費用を負担してでも指導員を研修に行かせているところもあれば、自分で受けなさいと言うだけのところもあり、学童によって差がある。

委 員 要は、指導員の資質だと思う。また、学童保育を利用している保護者に対する指導も必要になってくると思う。

委 員 指導員によって、各学童保育所のカラーが異なってくる。

委 員 指導員の代表者と、他の指導員との考え方に差がある場合もある。

委 員 「その他」にはそういうことを書きづらいので、選択肢として○をふれるような内容を入れていただきたい。自分の言葉にするのは難しいので。

会 長 今、言われたような内容を付け加えることは可能か。

事務局 表現的な部分は一度検討させてもらう。

委 員 学童保育の中身に関する選択肢が入っていないことが問題視されているので、中身の選択肢をもう少しプラスしていかなければいけない。そうでなければ、学童の実態に迫れない。学童の利用希望が多いからといって、施設数の増や時間の延長をすれば必ず利用が増えるかという、そうとは限らず、その他の質的な要因でそうはならないということもあり得る。

委 員 指導員の資質によっては、この学童には子どもを入れておけないということもある。逆に、越境してでも行きたいということもある。

事務局 量と質ということか。

委 員 それは当然出てくると思う。

委 員 高学年になると習い事や塾へ行く人が増え、学童に入れるのがもったいないということで利用者が少なくなってくるが、高学年の子と低学年の子がいることは、子どもの発達の上で意味があると思う。高学年割引、母子家庭割引、二人目割引はすべて学童保育所が負担しており、実施するかどうかそれぞれの学童次第であるため、差はかなりあると思う。

事務局 今回の改正で6年生までが対象となってくるので、そのあたりも見据えたい。

委 員 子どもの数が多くて高学年は入れないという状況のところもある。地域によって差がある。

委 員 1地区に2か所あるところもある。

事務局 基本は、ひとつの学童保育所で40人ぐらいが適正規模となっている。多くても最大70人ほどである。

会 長 選択肢を増やすか、「7. その他」のところで回答を引き出せるようにするか、どちらかだと思うが、いかがか。

委 員 少し話がずれるが、学童の場所というのは、個人の家で、部屋を間借りして、というのが原則であったと思う。

事務局 四日市市では、民設民営が原則となっている。

委 員 今年できた三重北学童保育所は、小学校施設内にある。学校長が大きな決断されてできたのだと思うが、行政としては、そのあたりはどう考えるのか。

事務局 学校運営に支障がある場合はだめだが、長期にわたって学童保育所として活用するだけのスペースがあれば、そういった余地も今後はあると考えている。

委 員 それまでは三重北小学校の空き教室を借りていたと思うが、校庭の中に新しく建てたとのことである。それに対しても教育委員会の管轄であるために、いろいろクリアしなければいけない制約が出てくるのではないかと思う。

事務局 地域によって差が出ているということもある。

委 員 言われるとおりで、大谷台学童保育所も小学校の敷地内にある一方で、町中の一軒家を探して、土地も狭いが何とかしているところもあるというのを見ると、すごく差があると思う。一人ひとりの権利のことを思うとそこに課題がある。

- 委員 「年齢制限があるから」という選択肢を入れると、あとでデータを拾いやすいと思う。
- 会長 10～11ページについてご意見があれば。
- 委員 (小学校：P10：問21について)  
「朝食を毎日食べますか」というのは、基本的に親が作っているという観念から来ている設問か。それとも、何を食べてもよいのか。パンにしる、昨日の残りのものにしる、親が作らなくても朝食は食べられるが、そのあたりはどうか。
- 事務局 朝食を誰が作るかではなく、早寝・早起き・朝ごはん運動の中で、朝食を食べて登校するのが一日をスタートする上で大事であるということを確認したい。
- 委員 何を食べているか、その認識が多様化している。朝ごはんを食べたか聞くと「食べた」と言うので、何を食べたか聞くと「チョコレート」「ガム」と言う子どももいる。これから活動するに相応しい食事かどうかまでこだわらないのか、ご検討いただきたい。
- 会長 (小学校：P11：問25、問25-①について)  
遊びの時間、遊びの仲間、遊び場、そういうところは今回は必要ないのか。インターネットについての設問があるが、インターネットをしている、こういう電子機器を使っているという結果が出てきたときは、今の状態はこうですよということで終わってしまうものなのか。
- 事務局 確かに、設問としてみればそのような状態になっている。どこまで掘り下げていくかは、全体のボリュームとの兼ね合いである。
- 委員 インターネットやメール等をどれくらいしているか聞いているが、子どもが部屋の中に入っていたらわからないと思う。保護者が把握していない部分もあると思う。
- 委員 外に遊びに行くと言って、公園でみんなでゲームをしていることもある。
- 事務局 「わからない」、「把握していない」という選択肢が必要か。
- 委員 親がきちんと見ていればよいが。正直に「把握できてない」という選択肢もあったほうがよい。
- 事務局 確かに、現状を把握するという意味では、そういった選択肢も必要だと思う。
- 会長 (小学校：P13：問28について)  
先ほど、最後の自由記述の直前に満足度についての設問を入れたほうがよいということだったので、こちらも同じように満足度の設問を活かすというかたちを取りたい。また、遊びについて、聞き方を含めて検討してほしい。
- 事務局 ご意見いただいた点など、十分検討していきたい。

## (2) その他

○事務局から参考資料「基本指針の概要（内閣府資料）」に基づき説明

発言の前の（ ）内の意味

(就学前：P 1：問4について)

①      ②      ③

①【資料の種類】

就学前・・・四日市市子ども子育てに関するアンケート調査(案)【就学前児童】  
小学校・・・四日市市子ども子育てに関するアンケート調査(案)【小学校児童】

②【ページ数】

発言の内容に係る設問があるページ数（資料各ページの下部に記載）

③【どの設問についてか】

ページ内の設問のうち、発言に係るもの